

農 場 通 信

農業活動での汗を感動へ ～実習による成就感と達成感～

■「がんばろう山梨！」農林高校 花メッセージ（システム園芸科）

システム園芸科では、本校北側のアルプス通り面するフェンスに、「がんばろう山梨」と文字をかたどった花メッセージを作りました。地域の住民やアルプス通りを通勤・通学で利用する方々に少しでも元気を出してもらえるように、学校で栽培しているナデシコで飾り付けました。壁面飾花は乾燥しやすいので、飾った後の灌水等の管理も大変ですが、見て頂いた方が少しでも元気になればと思っています。

今回、花メッセージを飾ってみて、テレビ・新聞の取材等、多くの反響があったことから、今後はプロジェクト学習の一環として、生徒がデザイン等を考えて継続して作成していきたいと思っています。



■山に緑を取り戻す取り組み（森林科学科）

森林科学科は、県森林環境部、森林・林業事業体と協力をして、山林の植林を行っています。昨年度も笛吹市御坂町尾山のアカマツを伐採した山林に広葉樹を植樹しました。成木になるには何年かかかりますが、木材の利用や自然災害の防止、野生動物等の生態系維持、水源の確保等、植林による将来への効果は計り知れません。

しかし、例年5、6月に演習林実習を行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの影響で植林等ができませんでした。新型コロナウイルスは、私たちが気が付かないところにも大きな影響を及ぼしています。



■新型の測量機器を使った学習（環境土木科）

現在の測量技術は機器の精度はもとより、器具の自動化が進み、建設会社で使用している測量機器には自動追尾装置やブルトース内蔵のセオドライトがパソコンと連携しており、製図まで自動で行うことが可能です。また、ドローンを飛ばし、その解析データをもとに現況図を作成するなど、日々進歩しています。

環境土木科では現場の企業に即した基礎技術教育を行うため、少しずつではありますが測量器具の近代化と更新を進めています。写真は、今回導入された新型の測量機器を使い、実習している様子です。測点を計測したところ、閉合誤差53万分の1、測角については誤差が認められませんでした。

昔からの技術は今の技術の礎です。基本的な学習を礎に、新たな技術も取り入れたいと考えています。



■マツの緑摘みの時期（造園緑地科）

新型コロナウイルス感染症の影響により、庭木の管理実習ができていません。本来なら、この時期にマツの管理作業をしています、この管理は、「緑摘み」といい、新しく伸びた芽（みどりという）を摘み取る作業です。この緑摘みを怠ると、樹勢や樹形維持ができなくなるのでとても大切な管理と言われています。手の指先が松脂（マツヤニ）でベタベタしますが、この松脂の量はマツの健康状態の判断材料になるので、しっかり観察します。

「造園」の仕事は、木を診て周囲の景色と調和させるとともに、健康状態を維持するように気遣いながら、植物を管理する仕事です。時期に応じた学習や実習ができないことが、とても残念に感じます。ところで、写真は新しい松ぼっくりです。皆さんが知っている松ぼっくりと違っていますが、どちらも同じ松ぼっくりです。



■醸造用ブドウ「メルロー」を植樹（食品科学科）

2年前から、農林高校の敷地内東側にワインの製造に使われる醸造用ブドウ栽培の圃場を造成しています。この圃場は、食品科学科が管理しています。今年は世界的に広く栽培されている黒ブドウ品種「メルロー」の苗30本を新たに植樹しました。深さ30cm程の穴を掘り、苗の植樹位置を定めて土を戻します。地中のより深い層に向けて成長できるように根の方向も工夫しなければなりません。

ブドウは苗を植え付けてから果実を収穫するまでに3年かかります。今年の新入生が3年生になった頃、たくさんのブドウが収穫できれば良いですね。ちなみに、写真のブドウ畑の看板は、森林科学科と環境土木科の先生方に協力して頂き、設置しました。少しフランスのように感じませんか？



■今年も八幡芋を栽培開始しました（農業クラブ）！

農業クラブ本会では、八幡新田地区の高齢者と地域特産である「八幡芋」を使つての交流を行っています。今年で6年目となります。その交流会で使用する八幡芋は、私たちが農場で植え付け・管理・収穫した里芋を使っていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で栽培作業が遅れています。

八幡芋は、農林高校がある地域の伝統野菜で、絹のように白く木目が細かい、粘り気が強い里芋です。栽培には手間が掛かりますが、農業クラブ本会役員が一生懸命に栽培管理しています。現在、分散・時差登校ですが、農ク役員は登校の度に畑に行って、生育状況を確認しています。写真は、種芋を鉢上げした様子です。「里芋の葉って、ハート型なんです。かわいいですね」。農ク役員でなくても、興味がある人は農業クラブ本会に声をかけて、栽培のお手伝いをお願いします。

